



第57回日臨技近畿支部医学検査学会特集

平成29年10月28日（土）、29日（日）国立京都国際会館において第57回日臨技近畿支部医学検査学会を開催いたしました。開催日は両日ともあいにくの空模様でしたが、1500名以上の参加者を迎え盛会裏に終えることができました。

PROGRESS～創意工夫でひろげる臨床検査～をテーマに掲げ、さまざまな取り組みをしました。絶え間なく進歩し続けるということの意味を一人ひとりが改めて考えられた良い学会になったと思います。

ご参加いただきました皆様、ご支援いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

特別講演～ドクターGの裏側～ 松村理司先生

ドクターGは2009年から定期的にNHKで放映されている医療番組です。番組の人気を裏付けるように、特別講演の聴講者は収容人数726名の大会場でも立見になるほどの大盛況でした。

NHKの医療系番組でいちばんの視聴率を取る番組は「ためしてガッテン」。これはNHKが制作していますが、「総合診療医 ドクターG」は制作会社がつくる番組です。

その制作会社とのご縁が、市立舞鶴市民病院時代に半年間の長期にわたって取材を受けた、「しんまい女医誕生！」というノンフィクション番組がきっかけでした（右スライドはその説明のワンシーン）。

臨床研修制度が始まる前から総合診療医の育成に力を入れてこられたご自身の体験を番組のそれぞれのワンシーンと対比させながら講演を進められ、その軽妙な語り口にぐんぐん引き込まれて気付けばあっという間の1時間でした。

講演終了後、「7割ほどしか喋れへんかったなあ。まあ、いつものことやけど」と笑いながら一言。そして、ドクターGの大ファンという若い女性技師が興奮冷めやらぬ様子で控室までやってきて、一緒に記念撮影をパチリ。



教育講演～安全な採血のポイント～ 大西宏明先生



検査技師が採血をする場面が増えてきていますが、採血により神経損傷をはじめさまざまな障害が発生する危険性があります。人体に侵襲を伴う行為であるため合併症に関する知識を持つことは非常に重要です。

検査技師の業務は検体を採取するところから始まると言われています。安全な採血方法を知るとは、検査技師の業務の中でも重要なもののひとつに違いないでしょう。

大西先生に採血合併症の発生の仕組みと予防法を、特に頻度が高くトラブルになりやすい神経損傷と血管迷走神経反応を中心にわかりやすく講演していただきました。患者さんのためにも我々検査技師自身のためにも、安全な採血を行う上で大変勉強になる講演でした。

関甲信支部・首都圏支部医学検査学会合同企画 「若手技師におけるLive@症例検討会」 リアルタイムストーリーミング動画配信



“関甲信”の若手症例検討会合同企画の実行委員になってくれませんか？”学会長の一言から始まり、関甲信支部、神戸、京臨技の実行委員4名で準備に取り掛かることになりました。

互いに初めての事ばかりで頻りに連絡を取り合いながら会場連携の準備をいたしました。

特に苦労した中継方法（埼玉会場と京都会場の動画中継）は、動画配信の遅延やセキュリティ設定による接続エラーが発生しないか、会場音声グループやハウリングを起こさないか慎重に確認しました。

当日は、ガチンコで各症例を閲覧し、ディスカッションを重ねながら埼玉会場とうまくコラボする事ができました。（若手らしい意見や鋭いツッコミなど大いに盛り上がりました）

文責：今川昇

一般演題

全部で159演題とたくさんの演題発表が行われました。
また発表のジャンルも12分野と多岐にわたり、現在の検査技師が求められる業務の幅広さを改めて実感する内容でした。



シンポジウム・教育セミナー

“若手技師もベテラン技師も誰もが参加して良かったと思えるような学術性の高い学会にしたい”という学会長の思いを基に、各研究班がシンポジウムや教育セミナーを企画しました。

それぞれにテーマを策定し、シンポジウム10セッション（34演題）、教育セミナー14セッション（27演題）という多くの企画を立てて、講師選定・依頼、打合せをすべて研究班で行い学会準備を進めました。いずれのプログラムでも、基本に立ち返る話から日常業務に活かすテクニックのあれこれ、最新のトピックス、さらに将来の展望まで、まさにPROGRESSの学会テーマにふさわしい内容でした。



献血にご協力いただいたみなさま
ありがとうございました！



編集後記 およそ1年前から学会の実行委員会を立ち上げ、学術・広報・企業展示・ランチョンなど分野ごとに担当者を決めて準備を行ってきました。各研究班には学術企画、一般演題の査読、学会当日の実務委員など多大なご協力をいただきました。計画が少しずつ具体化していき一つずつ形になりバラバラだったものがまとまっていき、そうして今回の学会が開催されました。一言で言うとチーム力であり、医療業界ではすっかり聞き慣れた言葉ですが、改めて実感するものがありました。チームって本当に凄い！自分が100人居たってとても実現できないことが、いろんな人が集まりそれぞれの持ち味を発揮することで可能になるということを再発見できた学会でした。（さ）

発行所 (一社)京都府臨床検査技師会
発行責任者・編集者 白波瀬 浩幸
編集者 齊藤 祐巳子
〒606-8395 京都市左京区東丸太町 9-1 マンパワービル3F
TEL・FAX 075-752-5090

<http://plaza.umin.ac.jp/kamt/>
会員専用ページ：ID kamt PW kyoringi

ご意見等は、京臨技ホームページのトップページ最下部
「お問合せ」ボタンから